

で練習していきなさい。(練習後)得したな。

B—教科書(テスト範囲)大きな声で読んでみよう。私も一緒に読むぞ。スラスラ読めるまでつき合うからな。

C—この前、授業中マンガいじってたろう。その分、これから勉強だ。

(6) 姉的役割をもつ音楽科担任の指導の一例

① A子

A「先生、細いね」

音「そう。電信柱みたいでしょ」

A「んー、でもやせてる割には、結構胸もあるじゃない」

音「ありがとう」

A「私もスタイルよくなりたい」

音「身長だってあるし、今のままでいいと思う」

A「そう、自信持っていていいかな」

② B江

B「先生、今日の服、地味だね」

音「こういうのが渋いっていうのよ」

B「もっと明るい色の服着てくればいいのに」

音「ところで、さっきA子ちゃんとなに、内緒話してたの」

B「今度のテスト悪かったんだ」

音「この次は今度の倍くらいがんばりなさい」

B「うん」

③ C美

音「(髪を切って来た朝)お早よう」

C「お早ようございます。あー、先生髪切ったんだ」

音「どう、似合う」

C「でも、横を段カットして、パーマかけて、後ろに流すともっとかっこよいのになぁ」

音「アドバイス、ありがとう。ところでちゃんと勉強しているかい」

C「一応やってるけど。高校に入れるかな」

音「何言ってるの。やってできないことなんてないんだから」

C「先生、また相談にのってね」

(7) 母親的役割をもつ技術・家庭科担任の指導の一例

(10月中旬の放課後、被服室の片付けを手伝わせながら、A子、B江、C美と4回目の話し合い)

B「先生、私たちとこ、よく呼んでくれますね。何かあるんですか。3年になってから他の先生たち、うんと親切なんだ」

家「あなたたち、頼りになるからよ。この被服室古いもの沢山あるでしょ。ちょっと気を抜くと整理整とん一人で大変なの。B江さんも家で毎日お手伝いしてるでしょ」

B「あんまり、でもA子はすごいよ。先生」

家「(笑顔で)B江さん、いつもいうように私の前ではA子さんとさんをつけて呼びましようね。先生、それがとてもうれしいの。そうそう、A子さんのこと、担任の先生がとてもほめていたわよ。炊事とか家の仕事一切やるんだって」

A「はい。まァ」

家「先生、感心するなァ」

A「父の仕事ってあちこち歩きまわる仕事で大変なんです。それに私しかないから」

家「立派な考えね。親孝行ね。古いかも知れないけど親孝行って知ってる、C美さん」

C「母がよくいってます。じいちゃんの世界は親孝行だって」

家「C美さんの家では、おいしいものは一番先きにおじいさんにあげるんですよ」

C「うん。おばあちゃんの命日の日は毎月お線香とお花をあげています。よく忘れないと思ってます」

家「すばらしいお母さんね。ところでB江さん、この前の『成人向きの献立と調理』のレポートとてもよくできてたわよ。肥満のお母さんのための献立の工夫、模範的よ。よく研究したね」

B「お母さんの体、心配だから」

家「その気持ちが親はうれしいのよ。さァ、B江さん、C美さん、A子さん、もう一息のお手伝いお願いね」

(この日の面接のねらいは、「親の心くばりへの気づき」であった)